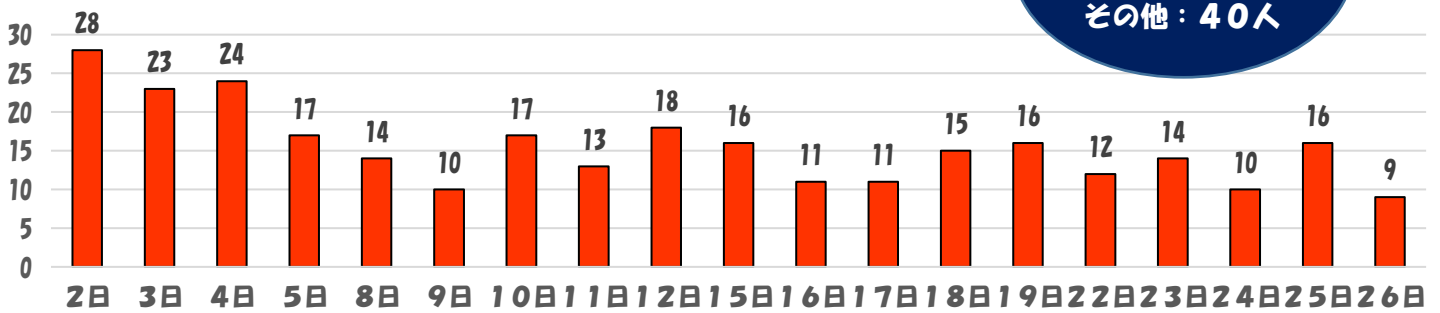


R8.6.30
第四号

1学期分の健康診断がすべて終了いたしました。検診は、病気などを早期に発見することはもちろんのこと、子どもたちが成長に気付いたり、自分自身の健康に関心をもったりと、よりよく健康に生活していくためにどうすればよいかを考えるきっかけとなるものです。御家庭でもお子さんと一緒に検診の結果について話題にしていただけると嬉しいです。保護者の皆様におかれましては、服装の準備等で御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。

6月の保健室来室状況

外科：183人
内科：71人
その他：40人

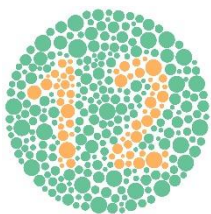


今年の6月は、昨年度と比べて、厳しい暑さの日は少なく、朝や曇りの日は肌寒い日も多くありました。気温がぐんと上がった日などは、熱中症が原因と思われるような、頭痛や吐き気を訴えて来室するお子さんもいましたが、昨年度と比べるとかなり少なかった印象です。

7月になると暑い日もさらに増えていくことが予想されます。引き続き、熱中症対策にご協力をよろしく願います。

札幌市では現在、警報・注意報レベルの疾患はありませんが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が2.0を上回っています。本校でも流行とまではいきませんでした。胃腸炎症状での欠席や、嘔吐や腹痛での来室がありました。胃腸炎の感染予防として最も有効なのは手洗いです。排便後や食事の前には、特に念入りに手洗いをするように、ご家庭でもお声がけいただければと思います。

色覚検査について（2年生・希望者）



上のような表を用いて検査をします。

昨日、2年生に希望調査を配付しました。希望があった方へ実施しますが、その他の学年でも、色覚に心配のある場合はいつでも検査を受けることができますので、ご相談ください。

実施予定日：7月13日（月）
※ 変更になる場合があります。



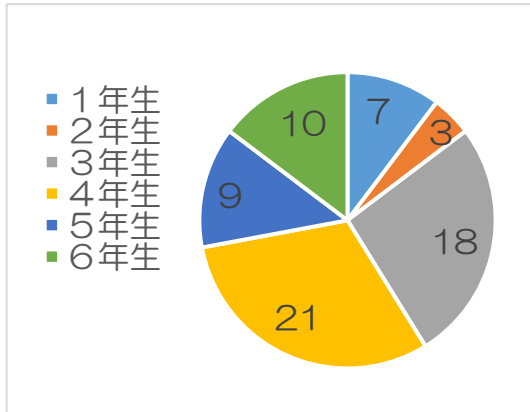


科検診の結果をお知らせします

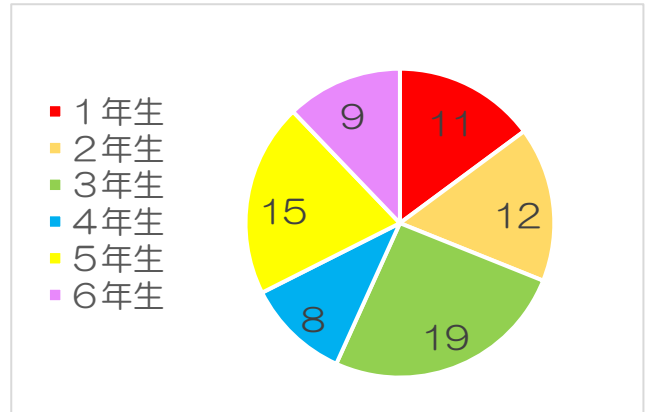
	虫歯のある子 処置済の子	歯垢が ついていた子	歯並び・噛み合わせ に注意が必要な子
合計	68人(14.5%)	18人(3.8%)	74人(15.8%)

学年別グラフ

虫歯のある子・処置済の子の人数比



歯並び・噛み合わせに注意が必要な子の人数比



文部科学省が行っている「令和7年度 学校保健統計調査」によると、処置完了者を含む虫歯（う歯）の者の割合は、小学校で過去最小を記録しています。（**30.83%**）

本校の割合は**68人（14.5%）**なので、全国と比較しても、大幅に低い傾向となっており、子ども本人や保護者の方の虫歯予防への意識の高さが反映される結果となりました。虫歯は進行すると全身に悪影響を及ぼします。また、乳歯の虫歯は、後に生えてくる永久歯にも影響が出ることがありますので、まだ治療がお済みではない場合は、早めの治療をお勧めいたします。

歯垢がついていた人は**18人（3.8%）**という結果でした。下顎の前歯の裏側には、唾液腺（唾液が出るところ）があり、ここに歯垢が溜まっていると、固まって歯石ができやすくなります。歯石になってしまうと、歯科でのクリーニングでしか除去できないので、歯ブラシだけでなくデンタルフロスや歯間ブラシも活用して、できるだけ歯石になる前に対処するようにしましょう。

また、歯並びや噛み合わせに注意が必要と言われた子は**74人（15.8%）**でした。このことで一度も歯科医の相談を受けたことがない場合は、一度、歯科医と相談することをお勧めします。

要注意乳歯について

要注意乳歯とは、乳歯の生え変わり時期に、永久歯の正常な生え方に悪影響を及ぼす可能性のある乳歯のことを指します。要注意乳歯を放置すると、歯並びが悪くなる可能性があったり、永久歯が誤った位置に生える、ねじれたりすることがあるので、今回の検診で指摘された場合は、一度歯医者さんで相談することをお勧めします。



要注意乳歯の例

- ・永久歯が乳歯を押しつけて生えてきている
- ・乳歯がグラグラと大きく揺れている
- ・乳歯が完全に抜けずに一部残っている
- ・乳歯が抜けるべき時期を過ぎても残っている